

日本聖公会祈祷書とは、 日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、 神に造られ、いのちを与えられた民として、 キリストと共に旅路を歩んでいくために用いる祈りの書です。 - 祈祷書改正ミッション・ステートメント - (第1号にて詳述)

信仰告白と祈祷書

司祭 エレミヤ・パウロ 木村直樹 (祈祷書改正委員)

八代崇主教が、プロテスタントのある神学校で講演したとき、「聖公会には信仰告白がありません」と、主教さんなりのユーモアで話されたと聞いたことがあります。その講演を聞いた神学生たちは、きっと非常に驚いたことでしょう。教会は信仰告白の上に建てられているというのが、プロテスタントの考えだからです。ルター派の「アウグスブルク信仰告白」、改革派の「ウェストミンスター信仰告白」、日本で言えば「日本基督教団信仰告白」など、プロテスタントの各教派は自分たちの信仰を「信仰告白」という形で定めています。

かつてバプテスト教会の友人の牧師就任式 に立ち会ったことがありますが、そのとき彼は、 自分の信仰を自分の言葉で告白(宣言)し、そ の教会の信徒全員から按手を受けていました。 聞けば、受洗者も自分の言葉で信仰告白をする ことを求められるとのことでした。

聖公会信徒にとって信仰、そして信仰告白とは何でしょう。「聖公会綱憲」の第二項に、「二ケヤ信経及び使徒信経に示されたる信仰の道を公認する」とあり、初代教会が定めた歴史的な信経を、聖公会の公式の信仰告白として認め

ています。そしてこれらの信経は、共同体礼拝 (公祷)の中で用いられています。使徒信経で あれば「洗礼式」「朝夕の礼拝」、二ケヤ信経で あれば「聖餐式」の中で唱えられ、告白されま す。このことは、信仰告白があって教会の礼拝 が成り立つのではなく、歴史的信経(信仰告白) が、礼拝の大切な一部分であるということを表 しています。

わたしは、聖公会の信仰とは、礼拝であり祈祷書であると思っています。聖公会の礼拝は、朝夕の礼拝も聖餐式も、初代教会からの伝承の中で形成され、時代の中で改定されて、現在に至っています。そして今、日本聖公会は、共同体礼拝の規範となる祈祷書の改定作業を行っている訳ですが、この改定は必ず初代教会からの伝承を踏まえた上で、現在のわたしたちの信仰を表し、未来の教会へと伝えられてゆくものです。

教会の伝承の中で形成された祈祷書の礼拝の中で、わたしたちは信仰を告白します。それは、わたしの信仰であると同時に、教会共同体の信仰であり、さらに世々の聖徒たちと共にある信仰です。

(2022年3月退任)



祈祷書改正の方針 一エキュメニカル(全教会的)な視点から

司祭 ダビデ 市原信太郎(祈祷書改正委員)

「祈祷書改正ニュース」第1号にあるとおり、 当委員会は祈祷書改正準備委員会から引き継いだ理念に基づいて活動しています。すでに6 年を経た当委員会の活動の中で、徐々に実際の本文起草に着手しつつある現状を踏まえ、現在、改正委員会としてのより具体的な改正方針を文章化すべく、準備を進めています。残念ながら、まだこれについては皆さまにお見せできる段階に至っていませんが、準備委員会が挙げている「改正祈祷書の特徴」の10項目中、「エキュメニカルな視点を持つ」という点について、今回は述べたいと思います。(ただ、委員会での議論が十分に深められているわけではありませんので、現時点での小生の私見が多分に含まれていることをご承知ください。)

エキュメニカルな祈祷書改正

祈祷書というのは、基本的には各国(各管区)の聖公会がそれぞれ独自に作成するものですが、しかしその過程で、様々な形でのエキュメニカルな協力関係が大きく寄与していることは重要です。

世界大の礼拝学(典礼学)研究学会として「国際典礼学会(Societas Liturgica)」がありますが、この学会は「礼拝に関するエキュメニカルな対話を、確固たる研究に基づいて、刷新と一致の観点から推進するための団体」と自己定義しており、知識の交換や各教会間の相互理解を深めるという目的をもって、文字通りエキュメニカルに活動しています。

この学会の聖公会のメンバーによって、1983年頃から「聖公会国際礼拝協議会(International Anglican Liturgical Consultation)」が組織され、現在に至るまで積極的な活動が続けられています。このIALCの議論自体が、聖公会のメンバーによってなされるものであっても、エキュメニカルな視点を根底に持つもので、実際にIALCの会合にはエキュメニカルゲスト(他教会の代表者)の参加を得ることが慣習となっています。この議論の中から、聖餐・洗礼・聖職叙任など、様々な分野における成果文書が生まれ、これらは各国の祈祷書改正に大きな影響を与え続けています。

エキュメニカルな共通典礼文

カトリック教会が作成した3年周期の聖餐式 聖書日課表は、多くの教会によって採用され、 世界大の広がりを持つものとなっていますが、 これらの取り組みを国際的に進めるための基 盤として、「英語典礼言語協議会(English Language Liturgical Consultation、ELLC)」が 設立されました。この協議会の重要な成果は、 「改訂共通聖書日課(Revised Common Lectionary、RCL)」の作成ですが、最初に公に されたのは Praying Together (1988)で、すでに 各教会で共通に使われ始めていた英語の典礼 文をまとめて検討し、広く用いることを可能と したものです。この ELLC テキストは英語圏の かなりの教会で採用され、現在では主の祈りや 使徒信経・二ケヤ信経などの信仰告白文、種々 のカンティクル (詩頌)、また 「主は皆さんとともに…」などの応唱句が、教会の垣根を越えて同じ言葉で唱えられています。

現在の作業状況から

これらの世界的傾向を踏まえ、当委員会でも エキュメニカルな視点、ことに日本聖公会が長 年教会間対話を積み重ねてきたカトリック教 会と日本福音ルーテル教会との関係を、改正作 業にも生かすよう努力しています。以下、いく つかの例を挙げます。

く詩編>

改正祈祷書の詩編は、『聖書協会共同訳』の詩編をもとに、礼拝用に言葉を修正するという作業方針が確認されていますが、この作業を日本福音ルーテル教会と共同で行っています。もとになる聖書自体がエキュメニカルな性格のものですが、加えて礼拝用詩編を実際に両教会の共同作業で作成することは初めての試みで、今後の両教会の交わりの深まりも合わせ期待されるところです。

<共通典礼文>

上記のように重要なエキュメニカルパートナーである日本福音ルーテル教会でも、現在式文改訂が進められています。また、カトリック教会でも日本語版の『ミサ典礼書』が改訂され、今年11月より使用される予定となっています。

すでに、聖公会とカトリックでは共通の「主の祈り」を用いて久しくなりますが、今回のルーテルの式文改訂において、ルーテルでもこの「主の祈り」が正式に採用されました。これは、3 教会の目に見える一致のしるしとして大切な意味を持つものです。

また、カトリックでは『ミサ典礼書』の新し

い日本語訳を作成する中で、私たちの祈祷書と 文言が一致、または非常に近くなった部分があ ります。一例を挙げれば、これまでカトリック で「また司祭とともに」と唱えていたところが 「またあなたとともに」に変更され、聖公会と 同じ言葉になりました。これを機会に、カトリ ックの新しい典礼文から私たちが学び、共通に できる部分を見いだしていければ、英語圏です でに広まっている典礼言語の共通化に、日本で も歩みを進める可能性が考えられます。

<エキュメニカルな感謝聖別文>

この他、例えば聖餐式の感謝聖別文において、現行祈祷書の〔II〕はヒッポリュトスの式文〔3世紀頃に作成され、東西教会分裂前の最古の式文と考えられていたもの〕がもとになっており、カトリックの第二奉献文と起源を一にしています。これに加え、改正祈祷書では、エキュメニカルな性格を持った感謝聖別文として各国祈祷書に採用されており、カトリックでも第四奉献文として用いている、聖バジル(バシレイオス)の感謝聖別文〔東方教会で広く用いられているもの〕を採用することを検討しており、現在研究が進められています。

改正祈祷書に向けて

祈祷書改正準備委員会での理念の議論の中で、「日本聖公会の祈祷書」は日本聖公会の独占物ではないのでは、という問題提起があり、これは今回の改正において常に意識されるべき重要なポイントです。私たちがお捧げする礼拝は、全教会がともに為す業であることをいつも思い起こしつつ、今後も作業にあたっていきたいと思います。

祈祷書改正の旅路 ~ 作業状況② ~

祈祷書改正委員会は、項目ごとに分担して作業を行っています。今回は以下の3項目について、 現段階での作業状況をご報告いたします。

教 会 暦

教会暦は『1938年祈祷書』までは「祝斎日及日課諸表」、『1959年祈祷書』から「公会暦」となって丁寧な内容になりました。そして『1990年祈祷書』では「教会暦」と名称変更し、イエス・キリストの復活にまでさかのぼる根源の祝日である「主日」を優先するという根本的な変革を行いました。

今回の改訂では、『1990年祈祷書』の考え方を基本的に踏襲しつつ、各々の言葉の意味付けをより丁寧に行う方向で考えています。『1990年祈祷書』では『1959年祈祷書』と同じく「教会暦は祝日と斎日とから成っている」という教会暦の構造説明から始まっていますが、教会暦そのものの意味を明記したいと思います。また「斎日」をはじめ、主要祝日や祝日、小祝日等についても意味付けをしたいと思います。例えば「斎日」について、「教会は、主イエス・キリストの苦難を想起するため、自らに規律を課し節制する日として、以下の斎日を守る。」とした上で、斎日の種類を記すといった具合です。

また小祝日を記念する人の名称ですが、現在はそのほとんどが英語表記です。例えば2月23日は殉教者主教ポリカープ(ポリュカルポス)の小祝日ですが、「ポリカープって誰?」と思っても日本語の事典などでは調べるのが困難です。そこで『キリスト教人名事典』等に基づいた表記を加える予定です。また8月15日に近い主日に守ることのできる「平和記念日」や、「主日と主日以外の祝日、祝日と斎日が重なるときの規定」の不具合も修正する予定です。

入信の式

現行祈祷書の大きな特徴の一つは、3世紀のヒッポリュトスの記録をモデルとして、従来の祈祷書のように「聖洗式」と「堅信式」を別々の式とせず、洗礼、堅信、初陪餐が一体となった「入信の式」を導入したことです。「入信」という概念が日本聖公会の祈祷書に導入されたという点で画期的であり、また、入信の式の3つの要素を可能な限り分離しないという考え方の重要性は失われていません。

しかし、現代の入信の式の神学では、洗礼の一回性、十全性を強調し、堅信は牧会的な式と位置づける傾向が強くなりました。この背後には、洗礼を「点」ではなく「プロセス」として捉える考え方があります。また、礼拝学の発展により、ヒッポリュトスの式文を従来ほど完全なモデルとして考えることが難しくなってきたこともあります。

日本聖公会では、2017年に「堅信前の陪餐」を導入しましたが、これにより「日本聖公会の入信の式の神学」を新たに提示する必要性に迫られています。このこともあり、入信の式は今回の祈祷書改正において大きなポイントとなる部分であると認識しています。クリスチャンが多数派に属さない社会の中でのキリスト教入信式の意味、洗礼そのものだけでなくその前後にも着目した洗礼の過程全般に関わること、教会論との関係等、考慮すべきことは多岐にわたっています。これらは海外と大きく事情を異にするため、他管区の事例が必ずしも参考にならず、独自の研究・考察が必要であるという困難さと取り組んでいます。

教会問答

「教会問答」は、もともと洗礼・堅信の準備のために聖職あるいは伝道師が志願者を教育するときのアウトラインをまとめたものと理解されています。キリスト教信仰の事柄を細部まで網羅するというよりも、教える人が志願者に教えるときの出発点を提示することを意図しています。今回の改正でも基本的にその路線を守って行きたいと思います。

教えられる事柄の項目については、米国聖公会の 1979 年祈祷書の「 信仰のアウトライン」にまとめられているものが参考になると思いますのでここに紹介いたします。

1. 人間の本質 2. 父なる神 3. 旧い契約 4. 十戒 5. 罪と贖い 6. 子なる神 7. 新しい契約 8. 信経 9. 聖霊 10. 聖書 11. 教会 12. 奉仕職(信徒と聖職,3 聖職位) 13. 祈りと礼拝 14. サクラメント 15. 洗礼 16. 聖餐 17. 他のサクラメント 的諸式 18. キリスト者の希望

1979年の米国の祈祷書で新しく加えられた項目は、「1. 人間の本質(私たちは本質的に何者なのか?)」と「5. 罪と贖い」です。また、「10. 聖書」も、その時点までの他の国の教会問答の影響で、少し詳しいものになっています。日本の現行祈祷書の教会問答が、「教会とは何ですか。」から始まるのに対して、「人間の本質」から始まっていることに目をみはらされます。当時の神学の傾向を反映しているのでしょうか。また、今ですと、「父なる神」に創造との関連で被造物や環境保全のことも盛り込むべきかとも考えます。

本のご紹介

「み言葉の礼拝」を献げる 礼拝奉仕者と会衆のための手引き 〜信仰の仲間として励まし合うために〜 主教 ヨハネ吉田雅人著



昨年 10 月に東北教区奉仕職養成グループから発行された「せみなりお 青葉」シリーズの第 2 号。「み言葉の礼拝とは何か」という本質的な問いかけを皮切りに、「み言葉の礼拝」の各部分が式文に沿って丁寧に分かりやすく解説されています。礼拝奉仕者や会衆の手引きとして、また教会全体の学びにも大変役立つ 1 冊です。

購入を希望される方は、電話・メール・ファックス等で東 北教区事務所までお申し込みください。なお、1 冊 150 円を お献げくださいますようお願いいたします。

電話:022-223-2349 FAX:022-223-2387

メール: do-sec@nskk-tohoku.com (東北教区事務所主事)

【連続エッセイ 第3回】



エクレシア・オランス

祈る教会

— 聖公会の礼拝と祈祷書<3> -

主教 ヨハネ 加藤 博道

主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれた地と親族、父の家を離れ 私が示す地に行きなさい」 (『創世記』第12章1節)



旧約聖書朗読の回復

「あまりに早急に、また直接的に、新約聖書的に存在し感じようとする者は、僕の考えでは、決してキリスト者ではない」。「究極の言葉を、究極以前の言葉をさしおいて語ることはできない」。

ちょっとドキッとするこの言葉は、反ヒットラーの運動に加担したとして逮捕、処刑されたドイツの牧師・神学者ボンヘッファーが獄中から友人へ宛てた手紙の一節です(1943年11月)。このボンヘッファーの言葉が、直接にローマ・カトリック教会や聖公会の礼拝改革に影響したとは思えませんが、とくにこの時代から旧約聖書の重要性の意識は高まっていきました。第一次、第二次世界大戦の惨劇を経験し、主イエスご自身は「すでに

世に勝っている」(ヨハネ16:33)としても、私たち自身、教会はいまだ分裂と苦難に満ちた現実世界の中、歴史の中を旅していることの再認識でした。教会も荒野を旅したイスラエルの民の旅の延長線上にある、「旅する神の民」という理解ともつながります。

1958年ランベス会議の礼拝に関する分科会は、他の事柄と共に、聖餐式における旧約聖書の朗読と、朗読の間の詩編の回復を提言し、それは聖公会全体の祈祷書改正作業に対して推奨されることとなりました。ローマ・カトリック教会が、現在私たちも用いている旧約聖書・使徒書・福音書の3朗読および詩編、3年周期の聖書朗読日課を発表したのは1969年でした。

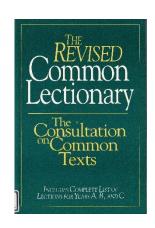
聖公会は、1549年の『第一祈祷書』以来、「朝・夕の礼拝」においては旧約、新約、詩編をほぼ全体にわたり継続的に朗読してきましたが、多くの会衆が集まり、説教もなされる日曜日の聖餐式の朗読日課は、それ以前の中世の伝統を引き継いで使徒書と福音書の2朗読、しかも毎年同じ、1年周期でした。その状態は日本聖公会では公式には1990年の現行祈祷書刊行まで続いたのです。〈2朗読・1年周期〉から〈3朗読・3年周期〉へ変わったわけですから、聖餐式における聖書の朗読量は数倍になったと言えます。と〈に旧約聖書朗読、詩編が加わったことは画期的でした。

ただし、その3つの朗読をいかに関係づけて読むのか、「聖書朗読配分」の問題があります。ローマ・カトリック教会の朗読配分(ほぼ現在の私たちの朗読配分)は、明確な「救済史」によって総合され、その主日の福音書が中心であり、旧約聖書は、福音書において実現したことの「予型」(あらかじめ指し示すもの)として選ばれ、読まれています。まことに見事な朗読配分で、それは世界の諸教会に影響を与え、現在では聖公会を含む多くの教派が、このローマ・カトリック教会のく3朗読・3年周期>に準拠した『改訂共通聖書日課』(The Revised Common Lectionary、1992年)を共同で作成し、それぞれの教派の伝統に合わせながら用いるようになりました。

しかしプロテスタントも含めた多くの教派が参加した、この共通聖書日課作成の協議の中で、旧約聖書の選び方が大きな問題となりました。キリスト教は、主イエスの出来事を中心として聖書全体を読む教会と言えます。「そして、モーセとす

べての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご 自分について書いてあることを解き明かされたし というエマオ途上の言葉(ルカ24:27)はそのこ とを見事に表しています。旧約聖書という言い 方自体が同様に、旧約と新約の関係を示してい ます。しかし、それはやはりユダヤ教の正典でも ある「ヘブライ語聖書」の自立性、独自の尊厳を 損ねてはいないか、予型論的な配分が本当につ ねに妥当なのか? という議論が起こったので す。結果として『改訂共通聖書日課』は、聖霊降臨 後の、いわゆる祭色「緑」の期間において、旧約 聖書のいくつかの主題を一定程度継続的に読む 方式も併用することになりました。旧約聖書を主 題とした説教も今まで以上に可能になります。し かし朗読配分としては複雑になり、これを実際に 教会がどのように用いるかは工夫の必要なこと です。聖書は「神の言葉」ですが、それをどう組 み合わせて読むかは、教会の神学や判断による ものです。聖書を全体として豊かに、ふさわしく 礼拝において読むという課題は、解決済になっ たわけではありません。

(前•祈祷書改正委員会担当主教)



『改訂共通聖書日課』 (The Revised Common Lectionary.1992 年)

祈祷書豆知識



幼児洗礼を受けている9歳の妹が 陪餐に強い関心があるようなのですが、 まだ堅信は早いですよね? 堅信の時期は人それぞれですが、 聖餐に与るためには洗礼を受けて いれば、その『交わり』に 参加することはできますよ。



そうなんですか!?

はい、2014年の総会で決まりました。 『すべての人の救いのために定められたのは洗礼 と聖餐の2つ』という教会問答の再研究で、 洗礼を受けている人は誰でも、神の家族である 教会の共同の食事(聖餐)に招かれ、 その交わりの中で養い育てられ成長していくと 認識されるようになりました。



じゃあ、妹も次の主日から 聖餐に与ることが できるんですか?

おうちの人、教父母、牧師さんと相談しながら、教会や主教さんにもお許しを頂いて、教会共同体全体でその時を祝えるように 準備できるといいですね。そしてその後も、陪餐による魂の 成長をともに実感できる共同体だと嬉しいです。英国聖公会では 8歳くらいで初陪餐に与っている実例もあるそうですよ。

*詳細は『「堅信前の聖餐」を巡るQ&A』をご確認ください。

コロナ禍で、聖餐式の「平和の挨拶」の ときに握手ができないのが とっても残念です。でも、今の祈祷書に 「平和の挨拶」が入った最初の頃は、ちょっ と恥ずかしかったです…



へぇ~、そうだったんですね! 祈祷書のルブリックには「挨拶を交わす」 とあるけど、皆さんの教会ではどのよう にしているのか興味があります。 「平和の挨拶」が今の祈祷書で初めて 入ったと思っている人が多いけど、 実は『1959 年祈祷書』にも 入っていたんですよ。

今は奉献の前にあるけれど、 以前は「主の祈り」の次、「神の小羊」 の前に、こんなふうに唱えていました。 司祭:「主の平安つねになんじらとともに あらんことを」

会衆:「なんじの霊とともにあらんことを」 "平安"が"平和"と訳し直されて、 新しい感じがしますね。



新約聖書では「聖なる口づけ」とありますが、 アメリカでは抱き合うことが多く、 隣の人と鼻を触れ合う国もあるようです。 日本でも握手が一般化してきましたね。

参考文献: 森紀旦『改訂増補 マラナ・タ』(日本聖公会京都教区)

「祈祷書改正ニュース」は祈祷書改正に関するさまざまな報告とともに、祈祷書や礼拝について、あらためて考えるきっかけとなるようなニュース・レターを目指しています。 次号は 2022 年秋頃に発行予定です。複数部お入り用の方は、管区事務所までご連絡ください。 祈祷書改正委員会のホームページもどうぞご覧ください。OR コードからも閲覧できます。



https://johnan18942.wixsite.com/nskk-prayerbook2026

祈祷書改正委員会 広報チーム